京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

（1 年計画の 1 年目）

1. 研究課題

チベット文明の継承と史的展開の諸相

Aspects of Historical Development and Transmission of the Tibetan Civilization

2. 研究代表者氏名

池田　巧

IKEDA Takumi

3. 研究期間

2021 年 4 月-2022 年 3 月(1 年目)

4. 研究目的

チベット文明は、周辺諸地域との歴史的交流を通じて、宗教・儀礼・言語・社会制度などを広く浸透させ、独自の文明圏を築きあげた。本共同研究班では、交流史の諸相に関する研究成果を学際的に集積し、チベット文明の史的展開を多角的に分析して、ユーラシア世界におけるその位置づけの再評価を行なう。7 世紀以降、チベット・ヒマラヤ地域は周囲の先行文明の影響を受けつつ、独自の文明を展開させてきた。11～12 世紀に仏教を完全に消化して以降、より強固となったチベット文明は周辺文化と交流を繰り返しつつモンゴル～東アジアにその影響力を伸張させた。さらに 20 世紀半ば以降もその発信力は欧米社会までにも影響を与えている。このような発信力と柔軟性をチベット文明は如何に獲得したのか、また周辺諸文明とどのように相克・調和してきたのか。その具体像を探るべく、多様な視点からチベット文明の諸相と継承を学際的に分析する。

From the 7th century, Tibetan civilization-its unique religions, rituals, languages, and social systems-gradually permeated the neighboring cultural areas via direct communications and trade. Our project compiles the results of interdisciplinary research conducted into intercultural communication among these areas, reviewing and evaluating aspects of the historical development and expansion of Tibetan civilization in the Eurasian sphere. The Tibeto-Himalayan area, while influenced by preceding Asian societies, has developed its own distinct civilization. Tibetan civilization grew stronger after assimilating Buddhism in the 11th through 12th centuries and, as a result of interaction with neighboring cultural areas, it spread through Mongolia to East Asia. Moreover, its influence was significant even in the modern European world of the late 20th

century. How did Tibetan civilization maintain such power and flexibility? How did it come into conflict with and then achieve reconciliation with neighboring civilizations? And, how have elements of Tibetan civilization been transmitted into modern society, even after the nation itself ceased to exist? To find answers to such questions, we [shall]analyze historical aspects and transmission of Tibetan civilization from various academic perspectives.

5. 本年度の研究実施状況

コロナ禍の影響でＢ班の研究報告書『チベットの歴史と社会』の刊行が遅れ、企画していた出版記念講演講演会を開催することができなかった。そのためＣ班として１年間の活動の継続延長を行なった。研究報告書『チベットの歴史と社会』出版記念講演会は、人文研アカデミーの活動の一環として企画し、ウェブセミナー形式の連続セミナーとして開催した。前期に４回にわたって開催した連続セミナーの終了後は、研究班の月例会を継続し、後期は研究情報の交換を行うとともに、平成４年度からの新たな共同研究班の開催準備などを行なった。また３月上旬には東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所の基幹研究との共催で、東京外大ＡＡ研会議室にてシンポジウム「詩歌から広がるチベット世界」を開催した。

6. 本年度の研究実施内容

2021-04-17 人文研アカデミー2021 出版記念連続セミナー『チベットの歴史と社会』 ヒマラヤ世界のウチとソト：受容と交流のチベット史 司会 岩尾一史 龍谷大学　発表者 井内真帆 白眉准教授（文学研究科）　発表者 小松原ゆり 明治大学（非常勤）

2021-05-15 人文研アカデミー2021 出版記念連続セミナー『チベットの歴史と社会』 高地における家畜との暮らし：チベット高原の牧畜社会 司会 池田　巧　発表者 別所裕介 駒澤大学　発表者 海老原志穂 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所（研究員）

2021-06-19 人文研アカデミー2021 出版記念連続セミナー『チベットの歴史と社会』 言語文化の継承と変容：広がりゆくチベット語の世界 司会 岩尾一史 龍谷大学　発表者 星泉 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所　発表者 池田　巧

2021-07-17 人文研アカデミー2021 出版記念連続セミナー『チベットの歴史と社会』 日常の信仰と世界観：チベットの民間宗教とポン教 司会 池田　巧　発表者 村上大輔 駿河台大学　発表者 小西賢吾 金沢星稜大学

2021-10-16 研究情報交換会

2021-12-18 研究班月例会　　アムド・チベット語におけるモンゴル語からの借用語―牧畜文化語彙を中心に― 発表者 海老原志穂 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所（研究員） ミボー（mi bogs）関連文書を読む：チベット旧社会における身分・契約・自由をめぐる諸問題 発表者 大川謙作 日本大学

2022-02-19 研究班月例会　　研究概要紹介 発表者 ドルジェツェデン 青海民族大学 『清朝支配の形成とチベット』(汲古書院) 刊行によせて 発表者 岩田啓介 筑波大学
2022-03-05 シンポジウム「詩歌から広がるチベット世界」　司会 星　泉 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 詩と歌をめぐる議論：チベット学会パネルディスカッション Q&A 発表者 ジャブ 青海師範大学 エチュードとしての古典詩：チベット文学の本質に迫る 発表者 根本裕史 広島大学 長いヤンタル 発表者 大川謙作 日本大学 詩歌とリズム 発表者 星泉 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 詩歌と朗読 発表者 ラジャブン 総合研究大学院大学 朗読ワークショップ 発表者 ラジャブン 総合研究大学院大学 占いと詩歌 発表者 西田愛 京都大学人文科学研究所 Pelliot tibétain 1286 と Pelliot tibétain 1287一原型「王統譜」・「宰相譜」から現状二巻本「古代チベットクロニクル」の生成一 発表者 今枝由郎 京都大学 総合討論 コメンテーター 崔境眞 東京大学
2022-03-06 シンポジウム「詩歌から広がるチベット世界」　司会 星　泉 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 口承文学の伝統と詩歌 発表者 三宅伸一郎 大谷大学 現代詩と女性 発表者 海老原志穂 東京外国語大学研究員 古代の記憶と詩歌 発表者 岩尾一史 龍谷大学 総合討論 コメンテーター 岩田啓介 筑波大学 ゲンドゥン・チュンペルの詩的世界 発表者 三浦順子 AA研共同研究員 文人ツェリン・ワンゲルが生きた時代 発表者 小松原ゆり 明治大学非常勤講師

7. 共同研究会に関連した公表実績
＊岩尾一史・池田巧（編)『チベットの歴史と社会』上下、臨川書店、2021年
＊人文研アカデミー2021 出版記念連続セミナー『チベットの歴史と社会』
　4月17日(土)「ヒマラヤ世界のウチとソト：受容と交流のチベット史」講師：井内真帆／小松原ゆり
　5月15日(土)「高地における家畜との暮らし：チベット高原の牧畜社会」講師：別所裕介／海老原志穂
　6月19日(土)「言語文化の継承と変容：広がりゆくチベット語の世界」講師：星泉／池田巧
　7月17日(土)「日常の信仰と世界観：チベットの民間宗教とポン教」講師：村上大輔／小西賢吾

8. 研究班員
所内
池田　巧、稲葉　穣、中西　竜也、西田　愛、野原　将揮
学内
熊谷　誠慈(こころの未来研究センター)、マルク=アンリ・デロッシュ(総合生存学館)、安田　章紀(京都大学こころの未来研究センター)

学外
岩尾　一史(龍谷大学文学部)、大川　謙作(日本大学文理学部)、別所　裕介(駒沢大学総合教育研究部)、星　泉(東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所)、根本　裕史(広島大学大学院・文学研究科)、海老原志穂(東京外国語大学)、山本　明志(大阪国際大学経営経済学部)、小西　賢吾(金沢星稜大学人文学部)、山本　達也(静岡大学人文社会科学部)、小野田俊蔵(佛教大学歴史学部)、三宅伸一郎（大谷大学)、小松原ゆり(明治大学文学部)、村上　大輔(駿河台大学・現代文化学部)、井内　真帆(神戸市外国語大学)、加納和雄(駒澤大学仏教学部)、小林　亮介(九州大学・比較社会文化研究院)、岩田　啓介(筑波大学人文社会系)、池尻　陽子(関西大学文学部)、大西　啓司(龍谷大学仏教文化研究所)、黒田　有誌(龍谷大学文学研究科)、大羽　恵美(金沢大学国際文化資源学研究センター)、長岡　慶(関西大学社会学研究科)

9. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数（必須）	受入人数					延べ人数				
		総計	海外研究者	若手研究者（40歳未満）	若手研究者（35歳以下）	大学院生	総計	海外研究者	若手研究者（40歳未満）	若手研究者（35歳以下）	大学院生
学内（法人内）	3	8					24				
国立大学	6	7		1			42		8		
公立大学	1	1					7				
私立大学	10	14		1			73		7		
大学共同利用機関法人											
独立行政法人等公的研究機関											
民間機関											
外国機関		3					3				
その他 ※											
計	20	33 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	149 (0)	0 (0)	15 (0)	0 (0)	0 (0)
※「その他」の区分受入がある場合 具体的な所属等名称を記載：例）高校教員 無所属の場合は機関数０とカウントし、この欄の記載不要											

10. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数
なし

11. 費目の 30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由
なし

12. 次年度の研究実施計画
なし

13. 次年度の経費
なし

14. 研究成果公表計画および今後の展開等
　共同研究報告書の出版と出版記念連続セミナーを開催したことをもって研究成果の公表は終了した。チベット研究班の成果は、令和４年度より新たに組織する共同研究Ｂ班「チベットにおけるコミュニケーションツールの研究　−書簡文化の歴史的変遷と現代的意義−」に発展的に継承される予定。